



アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド

愛称 ボンド・ストーリー

追加型投信／内外／債券

第21期(決算日2023年5月1日)

作成対象期間(2022年5月3日～2023年5月1日)

第21期末(2023年5月1日)	
基準価額	17,628円
純資産総額	1,224百万円
第21期	
騰落率	△ 0.1%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド」は、このたび第21期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドを通じて世界各国の投資適格債に投資し、相対的投資価値分析を基本としたアクティブ運用を行います。当期もこれに沿った運用を行ってまいりました。

ここに、当期の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

アライアンス・バーンスタイン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番6号 日比谷パークフロント

お問合せ先 **お客様窓口**

電話番号 **03-5962-9687** (受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

ホームページアドレス <https://www.alliancebernstein.co.jp>

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。書面での交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

○当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、アライアンス・バーンスタイン株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

<「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法>

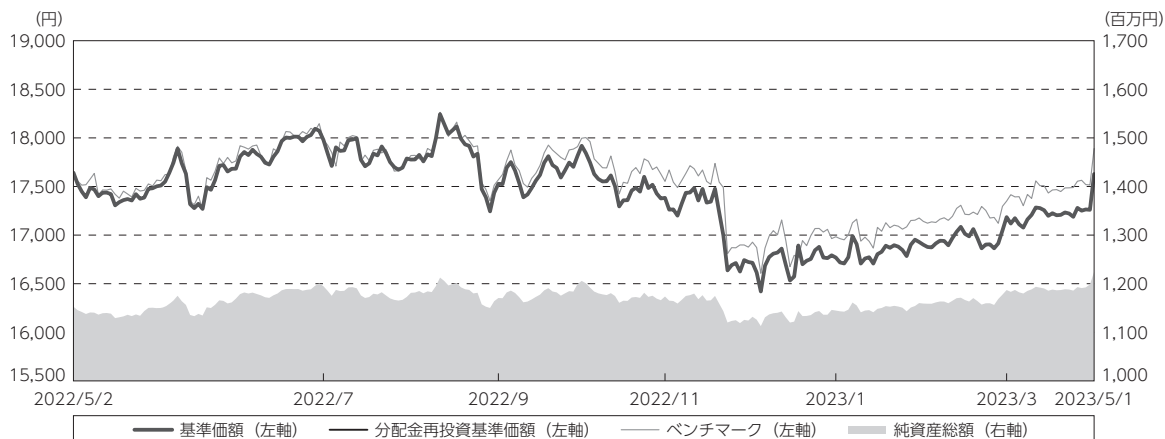
上記ホームページアドレスにアクセス → 「国内投資信託 基準価額一覧」を選択 → 「基準価額一覧」を選択 → 表内の当ファンド名を選択 → 「運用報告書(全体版)」のリンクを選択

運用経過

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド(以下「当ファンド」ということがあります。)の運用状況をご報告いたします。

期中の基準価額等の推移

(2022年5月3日～2023年5月1日)



期首：17,642円

期末：17,628円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 0.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首(2022年5月2日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
 (注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(円ベース)です。詳細はP4をご参照ください。

○基準価額等の推移

基準価額(分配金(税込み)再投資)は前期末比で下落しました。ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(円ベース)との比較では、同インデックスを下回るパフォーマンスとなりました。

○基準価額の変動要因

【上昇要因】

- ・保有債券のクーポン収入
- ・保有しているカナダやニュージーランドの国債価格の上昇
- ・円安米ドル高、円安ユーロ高

【下落要因】

- ・保有しているユーロ圏や米国、日本の国債の価格下落

1万口当たりの費用明細

(2022年5月3日～2023年5月1日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	223	1.283	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(103)	(0.592)	委託した資金の運用、基準価額の算出、法定書類作成等の対価
(販 売 会 社)	(111)	(0.636)	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(10)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	4	0.025	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.007)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(2)	(0.014)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.003)	その他は、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	227	1.308	
期中の平均基準価額は、17,387円です。			

(注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。

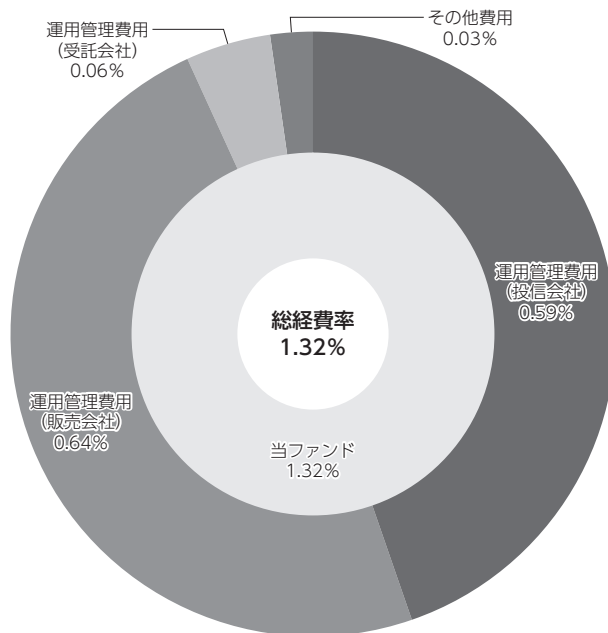
(注) その他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.32%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

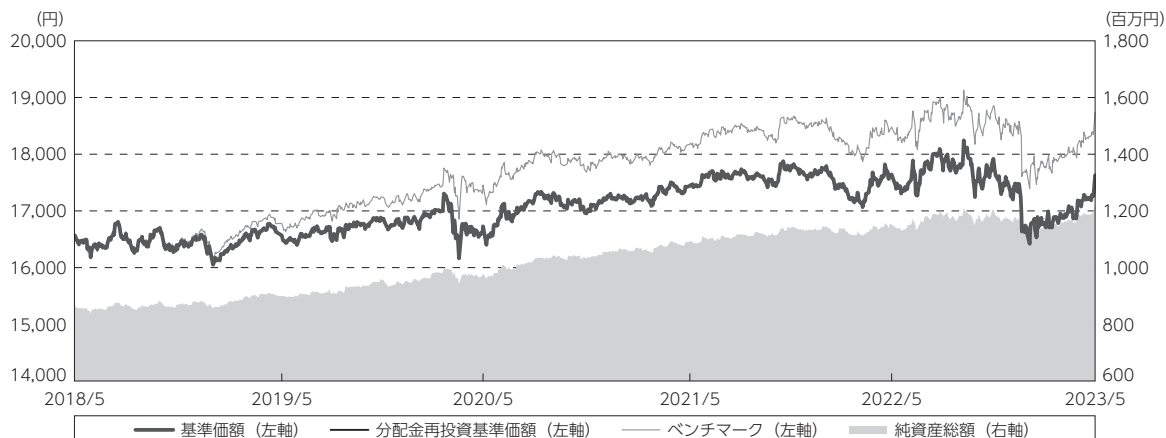
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年5月1日～2023年5月1日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年5月1日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年5月1日 決算日	2019年5月7日 決算日	2020年5月1日 決算日	2021年5月6日 決算日	2022年5月2日 決算日	2023年5月1日 決算日
基準価額 (円)	16,573	16,567	16,728	17,440	17,642	17,628
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.0	1.0	4.3	1.2	△ 0.1
ベンチマーク騰落率 (%)	—	1.2	4.0	4.1	1.7	1.4
純資産総額 (百万円)	864	898	979	1,091	1,152	1,224

- (注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(円ベース)です。

●ベンチマークに関して

○FTSE世界国債インデックス(円ベース)

FTSE世界国債インデックス(円ベース)は、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。

投資環境

(2022年5月3日～2023年5月1日)

【世界の債券市場】

当期は、米国国債、ドイツ国債、日本国債ともに、金利は、前期末比で上昇(価格は下落)しました。

米国国債金利は、期初から2022年8月初めにかけては、景気後退懸念や利上げペースの減速観測から低下(価格は上昇)しました。しかし、その後10月中旬にかけては、米連邦準備理事会(FRB)による積極的な金融引き締め観測を背景に上昇基調で推移しました。期末にかけては、再び利上げペースの減速観測が高まったことや、欧米の金融不安などから、低下しました。

ドイツ国債金利は、欧州中央銀行(ECB)による利上げ見通しから、期を通じておおむね上昇基調で推移しました。

日本国債金利は、期初から2022年12月半ばにかけてはおおむねレンジ内の動きでしたが、12月20日に日本銀行(日銀)が長期金利の許容変動幅を拡大したことを受けて大幅に上昇しました。その後期末にかけては、欧米の金融不安の影響で一時的に低下する場面があったものの、おおむねレンジ内の動きでした。

【為替市場】

前期末比で、円安米ドル高、円安ユーロ高となりました。

米ドル円は、期初から2022年10月中旬にかけては、米国金利の上昇を背景とする日米金利差の拡大から、円安米ドル高が進行しました。その後2023年1月末にかけては、米国の利上げペースが減速するとの思惑で米国長期金利が低下したことや、日銀の為替介入や長期金利の許容変動幅の拡大決定などを背景に円高米ドル安基調となりました。2月以降期末にかけては、やや円安米ドル高基調となりました。

ユーロ円は、欧州金利の上昇を受け、おおむね円安ユーロ高基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年5月3日～2023年5月1日)

【当ファンド】

当ファンドはアライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格格付の公社債へ投資することにより、信託財産の成長を図ることを目的としています。当ファンドは実質外貨建資産について、原則として為替ヘッジは行いません。

当ファンドは期を通じてほぼ全額をマザーファンド受益証券に投資しました。

【マザーファンド】

マザーファンドでは、ファンダメンタル分析と計量分析を融合した運用判断に基づき、世界各国の国債や投資適格社債の中から相対的に高い収益が期待される国、債券セクターや銘柄に対して機動的に資産配分を行いました。

結果として、米国国債など先進主要国の国債を中心に投資を行いました。加えて国債との利回り格差(スプレッド)があり投資妙味が高い社債や政府機関債などへも投資を行いました。国別では、アメリカやイギリスの組入比率が上昇した一方、オーストラリアやイタリアの組入比率が低下しました。

＜マザーファンドの国別組入比率＞

前期末 (2022年5月2日現在)

発行国	組入比率
アメリカ	31.9%
日本	15.1%
オーストラリア	9.9%
イタリア	9.4%
ドイツ	6.1%
その他の国	25.2%
現金等	2.4%



当期末 (2023年5月1日現在)

発行国	組入比率
アメリカ	36.9%
日本	16.1%
イギリス	7.0%
イタリア	5.0%
カナダ	4.0%
その他の国	29.2%
現金等	1.8%

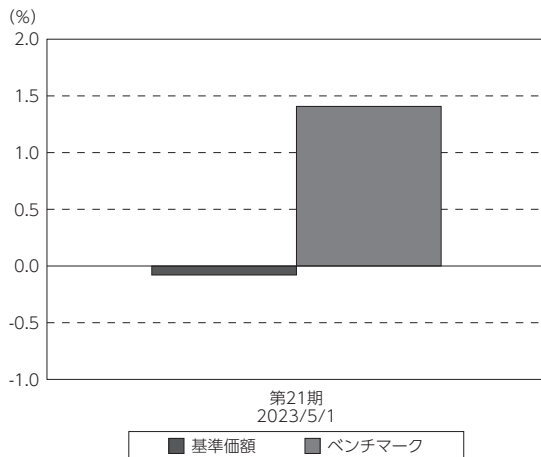
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合 (小数第2位を四捨五入)。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年5月3日～2023年5月1日)

ベンチマークとの比較では、マザーファンドにおいて、ユーロ圏を高めとし、米国を低めとした国別配分や、米国のインフレ連動債へのセクター配分が主なマイナス要因となりました。一方、ユーロ圏や米国の国債のイールドカーブ戦略やユーロ圏の国債の銘柄選択が主なプラス要因となりました。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。
 (注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（円ベース）です。詳細はP4をご参照ください。

分配金

(2022年5月3日～2023年5月1日)

当期の収益分配については、信託財産の成長を目指す観点から、見送ることとしました。なお、収益分配に充てなかった利益については、信託財産内に留保し「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第21期
	2022年5月3日～ 2023年5月1日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,048

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の当期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注) 上記表は、経費控除後の数値です。

今後の運用方針

【当ファンド】

引き続き、マザーファンド受益証券にほぼ全額投資する方針です。

【マザーファンド】

世界経済は、前年からの減速が続くものの、2023年はプラス成長を維持すると予想しています。ただし、欧米の金融不安から与信市場がタイト化することが予想される中、インフレの高止まりから各国中央銀行が利上げを継続すれば、景気後退に陥る可能性があります。その場合は、成長率が下方に修正される可能性があります。

米国経済は、インフレが多少落ち着きはじめ、利上げペースが鈍化しているものの、景気減速が長引く懸念があり、2023年は小幅なマイナス成長になるとみています。

欧州経済は、インフレ率は依然高い状況が続いていますが、輸入の大幅な減少により純輸出が景気を下支えていることなどから、2023年は小幅ながらプラス成長を予想しています。

日本経済は、2023年はプラス成長を予想しています。ただし、地政学リスクの高まりによるマイナスの影響を受ける可能性もあります。

引き続き、ファンダメンタル分析および計量分析に基づいて、世界各国の投資適格債を組み入れる方針です。

※上記は決算日時点での見通しおよび運用方針であり、今後予告なしに変更することがあります。また、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

お知らせ

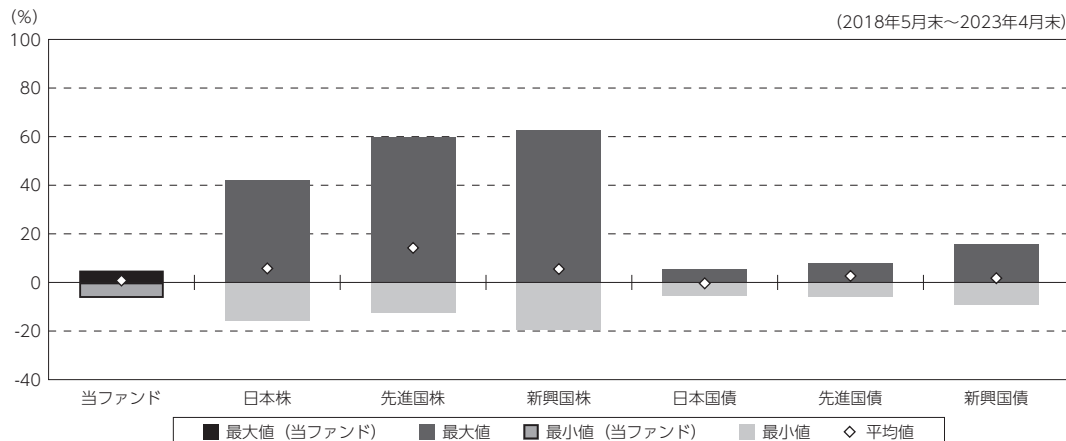
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限。ただし、信託約款所定の事由が生じたときは、信託契約を解約し、信託を終了（償還）させることがあります。	
運用方針	世界各国の投資適格格付けの公社債を主な投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。	
主要投資対象	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド	世界各国の投資適格格付けの公社債（以下、「投資適格債」といいます）を主な投資対象とします。原則として、取得時に格付機関により投資適格格付け（BBB格以上）を得ている公社債としますが、格付けを得ていない場合でも、委託者が投資適格債に相当すると判断した場合は投資を行う場合もあります。
運用方法	<ol style="list-style-type: none"> ①マザーファンドを通じて、世界各国の投資適格債に投資します。 ②調査チームによる相対的投資価値分析を基本としたアクティブ運用を行います。 ③運用は、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーに委託します。 ④実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ⑤ファミリーファンド方式で運用を行います。 	
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①分配対象額は、経費控除後の利子等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わない場合もあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づき元本と同一の運用を行います。 	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	4.9	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 6.4	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	0.8	5.8	14.2	5.5	△ 0.4	2.7	1.8

(注) 上記グラフは、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、2018年5月～2023年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
 (注) 当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づき計算した騰落率ですので、実際の基準価額に基づき計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

- 日本株…… TOPIX (東証株価指数、配当込み)
- 先進国株…… MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)
- 新興国株…… MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
- 日本国債…… NOMURA - BPI 国債
- 先進国債…… FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国債…… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P14の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年5月1日現在)

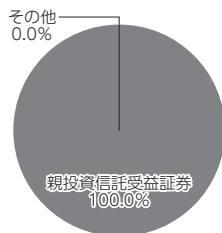
○組入ファンド

銘 柄 名	第21期末
	%
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド	100.0
組入銘柄数	1銘柄

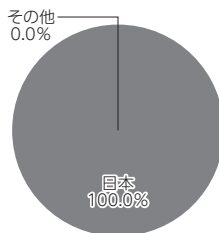
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

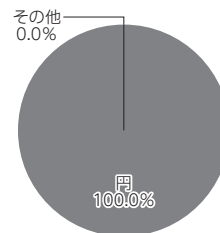
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

項 目	第21期末
	2023年5月1日
純 資 産 総 額	1,224,436,146円
受 益 権 総 口 数	694,597,450口
1万口当たり基準価額	17,628円

(注) 期中における追加設定元本額は113,045,630円、同一部解約元本額は71,816,230円です。

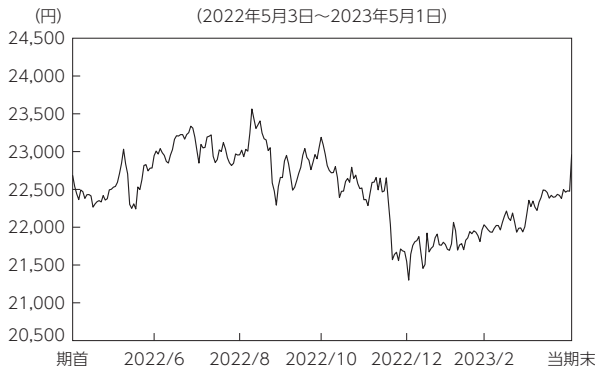
組入ファンドの概要

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド

当マザーファンドの当計算期間の運用経過等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。運用報告書（全体版）の入手方法は、表紙ページの一番下の段に記載しております。

【基準価額の推移】

(2022年5月3日～2023年5月1日)



【1万口当たりの費用明細】

(2022年5月3日～2023年5月1日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用	2	0.011
（保管費用）	(2)	(0.007)
（その他）	(1)	(0.003)
合計	2	0.011

期中の平均基準価額は、22,511円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。
 (注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。
 (注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

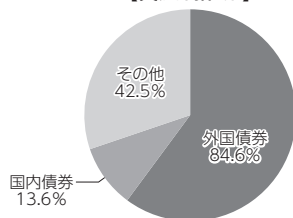
【組入上位10銘柄】

(2023年5月1日現在)

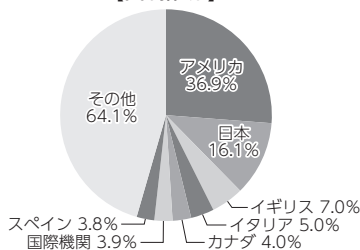
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 US TREASURY 2.25% 2027/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	5.1
2 US TSY INFL IX N/B 0.125% 2026/10/15	国債証券	米ドル	アメリカ	3.4
3 US TREASURY 3.5% 2028/4/30	国債証券	米ドル	アメリカ	3.3
4 UK TREASURY 3.25% 2033/1/31	国債証券	英ポンド	イギリス	3.0
5 US TREASURY 1.875% 2027/2/28	国債証券	米ドル	アメリカ	3.0
6 第436回利付国債(2年)	国債証券	円	日本	2.9
7 REPUBLIC OF AUSTRIA 0.9% 2032/2/20	国債証券	ユーロ	オーストリア	2.8
8 第433回利付国債(2年)	国債証券	円	日本	2.4
9 NEW ZEALAND GOVERNMENT 2.75% 2025/4/15	国債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	2.3
10 EUROPEAN INVESTMENT BANK 0% 2028/3/28	特殊債券	ユーロ	国際機関	2.1
組入銘柄数	132銘柄			

- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注) 国（地域）につきましては発行国を表示しております。

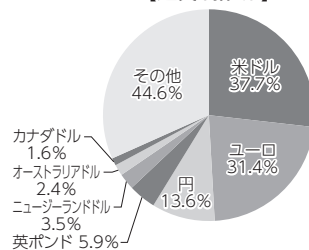
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

【直物為替先渡取引残高】

(2023年5月1日現在)

銘柄別	取引契約残高			
	当期末想定元本額			
	買 建		売 建	
	外貨建金額	邦貨換算金額	外貨建金額	邦貨換算金額
米ドル	千米ドル	百万円	千米ドル	百万円
(チリペソ)	14,977	2,049	16,500	2,257
(インドルピー)	18,108	2,477	18,128	2,480
(韓国ウォン)	6,028	824	6,002	821
(マレーシアリングット)	310	42	—	—
(新台幣ドル)	22,310	3,052	25,345	3,468

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○TOPIX（東証株価指数、配当込み）

TOPIX（東証株価指数、配当込み）は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社が算出し公表する、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI 国債

NOMURA – BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。